

## 事業の持続可能性が増すGlobal100社

### ◆ “2020 Global100 Most Sustainable Corporations in the World” 発表

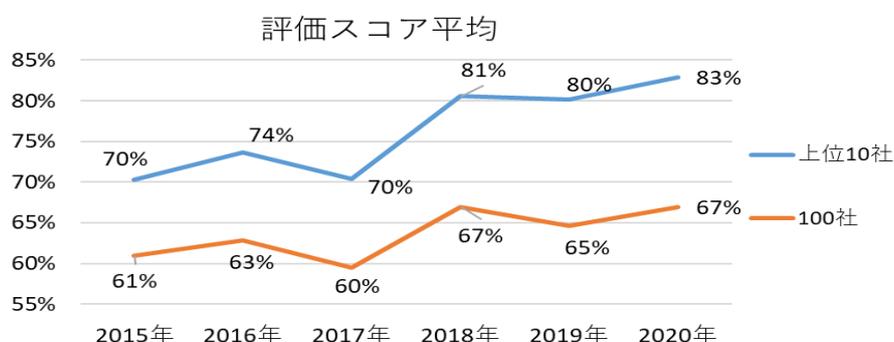
2020年1月、ダボス会議（正式名称：世界経済フォーラム年次総会）で、毎年恒例の世界で最も持続可能な企業100社、“Global 100”（以下G100）が発表された。G100は、世界の年商10億ドル以上の企業を対象とし、①サステナビリティ情報開示、②財務の健全性、③製品カテゴリー（タバコ、武器、食肉などの除外カテゴリー以外）、④罰金など受けた制裁、の4段階のスクリーニングを通過した企業について、スコア付けされて選ばれる。上位10社は次の通りであった。

【2020年 トップ10】

2020年 順位	2019年 順位	社名	分類カテゴリー	国名	評価 スコア
1	4	エルステッド	電力卸売	デンマーク	85.2%
2	1	クリスチャン・ハンセン	バイオ	デンマーク	83.9%
3	3	ネステ	石油精製	フィンランド	83.6%
4	14	シスコシステムズ	ハードウェア	米国	83.6%
5	48	オートデスク	ソフトウェア	米国	82.8%
6	58	ノボザイムズ	化学	デンマーク	82.7%
7	35	INGグループ	銀行	オランダ	82.5%
8	-	エネル	電力卸売	イタリア	81.8%
9	8	ブラジル銀行	銀行	ブラジル	81.7%
10	-	アルゴンquinパワー&ユーティリティ	電力	カナダ	80.9%

Corporate Knights HP より作成

2年連続のトップ10入りは、19年はネステ社のみであったが、20年は4社と増えた。全体でも19年は約半数の46社が入れ替わったが、20年は28社と2年連続高評価の企業が多かった。毎年、評価項目の改訂はあるものの、評価スコアは上位10社、全体ともに高まる傾向で、ESG対応、情報開示が進んでいるようだ。



G100ランクインが最も多かったセクターは、銀行を中心とする金融で、18社であった。機関投資家がESG投資への姿勢を強めていることが背景にある。

◆日本企業は6社がランクイン

日本企業数は19年より2社減ったが、ランクイン6社は評価スコア、ランクともに向上した。トップの積水化学工業は、19年の89位から12位へと大躍進した。

躍進の主要因は、認定された「クリーン売上率」が13%から28%に増え、それをもとに計算されたスコアが倍増したことである。「クリーン売上率」は選考元のコーポレートナイツ社の規定による持続可能な社会に貢献するサービス・製品の売上比率で、この比率が高いほど低炭素社会への移行リスクが低いとみなされる。

積水化学工業によると、評価項目変更の影響もあるが、19年の回答で評価機関の誤解があったと思われる表現を見直し、根拠を示したことが躍進に繋がったと推測している。同社は、2000年頃から環境重視の経営にシフトしており、18年は自社で規定する自然環境・社会環境の課題解決に貢献する「環境貢献製品」の売上比率が56%に上る。このようなESG経営の取り組みが高く評価された。

【日本企業】

2020年 順位	2019年 順位	社名	分類カテゴリー	2020年 評価スコア	2019年 評価スコア
12 ↑	89	積水化学工業	その他素材	79.5%	50.7%
68 ↑	78	武田薬品工業	医薬品	62.7%	58.1%
72 ↑	96	コニカミノルタ	コンピューター周辺機器	61.0%	43.1%
86 ↑	92	花王	パーソナルケア	55.5%	45.8%
89 ↑	100	パナソニック	コンピューターハードウェア	53.6%	38.5%
92 ↑	95	トヨタ自動車	自動車	52.2%	43.6%

Corporate Knights HPより作成

◆G100は事業の持続可能性でアドバンテージ

今回のG100の分析報告で特徴的なことは、「女性取締役比率」や「従業員とCEOの報酬格差」など体制面のみでなく、本業に関わる項目でG100に明らかなアドバンテージがあることだ。G100の「クリーン売上率」は、19年の26%から20年は37%に高まった。また「CO<sub>2</sub> 1トンあたりの売上額」は、ベンチマークの企業指標に対し、19年の1.5倍から20年は2.2倍になった。G100の低炭素社会に向けての事業変革のスピードは加速している。

【石井由紀】